

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

8月の降水量が例年より大幅に多かったため、病害の発生全般にご注意ください。

## 特に注意！（9月）

## 水稲

## トビイロウンカ

- ・ 6月から8月にかけて、大阪府の一部地域においては、例年より多い飛来が確認されています。
- ・ トビイロウンカは稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認しましょう。
- ・ 発生が見られたら、スタークル（アルバリン）粒剤、トレボン乳剤などを散布しましょう。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・ 幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフード、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。

## なす

## 褐紋病

- ・ 特に露地の水なすで発生しやすく、盛夏過ぎから被害が増える傾向にあります。
- ・ ほ場内の排水や風通しを良くし、湿度を上げないようにしましょう。
- ・ 発生を認めたら直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出して処分しましょう。
- ・ 発生を認めたらペンレート水和剤もしくはスクレアフロアブルを散布しましょう。

## 野菜類・花き類

## シロイチモジヨトウ

- ・ 例年より多い発生が確認されています。ねぎでの発生が多いですが、豆類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害しますので注意しましょう。
- ・ 発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布しましょう。



トビイロウンカ成虫



褐紋病の被害果\*



シロイチモジヨトウの幼虫

次回の情報は9月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## 病害虫の発生予報(9月)

## 水稲

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲				いもち病	
		紋枯病			
	ジャンボタニシ(発生に注意)				
				トビイロウンカ	
		斑点米カメムシ			

## 果樹

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
			褐斑病		
				晩腐病	
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
		ミカンハダニ			
果樹類全般	果樹カメムシ類				

## 野菜

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				褐紋病	
		アザミウマ類			
きゅうり		ウリノメイガ			
				コナジラミ類	
		ミナミキイロ アザミウマ			
黄化えそ病(発生に注意)					

## 花き(きく)

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き(きく)				黒斑病・褐斑病	
				白さび病	
			アザミウマ類		

## 野菜類・花き類全般

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				コナガ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		

# 水稻

## いもち病



葉いもち



穂いもち

### 特徴

- ◆いもち病は育苗期から成熟期まで発生する。発病部位によって、育苗中～後期及び分けつ期の葉いもちと出穂後の穂いもち、節いもちなどがある。
- ◆気温22～26℃、多湿で日照不足の時に多発し、降雨が続く、窒素過多、過繁茂などの場合に発病が助長される。

### 防除のポイント

- ◆特に上位3葉に葉いもち病斑があると穂いもちに移行しやすいので、降雨が続く場合は**ブラシフロアブル**などを散布する。

令和3年8月11日発出の防除情報  
「水稻の「いもち病」に注意しましょう！」についてもご参照ください。  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoyouhou/R0308\\_i\\_mpt\\_i.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoyouhou/R0308_i_mpt_i.pdf)

## 紋枯病



紋枯病発病株

### 特徴

- ◆高温多湿時に多発する。
- ◆窒素過多、密植、過剰分けつで発病が助長される。

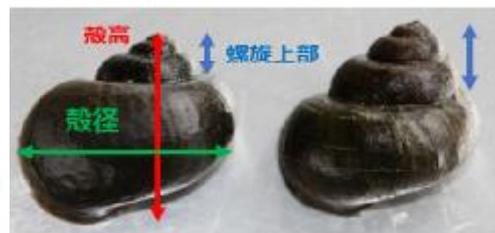
### 防除のポイント

- ◆過繁茂にならないようにする。
- ◆発生を認めたら**バリダシン液剤5**などを散布する。

## ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ  
(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ

マルタニシ



ヒメタニシ

注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

### 特徴

- ◆成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。

### 防除のポイント



卵塊

- ◆ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

## トビイロウンカ



トビイロウンカ成虫



トビイロウンカ幼虫



トビイロウンカによる坪枯れ症状

## 特徴

- ◆ 6月下旬～7月上旬の梅雨時期に中国大陸から長翅型成虫（飛来世代）が日本に飛来する。
- ◆ 水田に着地したトビイロウンカは分けつ期のイネの株元に住み着き、茎の表面に産卵する。
- ◆ 卵は1週間ほどで孵化し、幼虫（第1世代）は親と同じくイネの株元で、その師管液を吸汁して成長する。その後、数回の脱皮を経て成虫となる。第2世代、第3世代が繁殖し、出穂期以降に多発すると坪枯れ症状が生じる。

## 防除のポイント

- ◆ トビイロウンカは稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。
- ◆ 発生が見られたら、スタークル（アルバリン）粒剤、トレボン乳剤などを散布する。

詳細は、令和3年度版病害虫防除指針の巻頭カラー特集「水稲トビイロウンカの防除」を参照。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/R3tobihiro\\_manual.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/R3tobihiro_manual.pdf)

## 斑点米カメムシ類



アカスジカスミカメ※

## 特徴

- ◆ アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシなどが加害する。
- ◆ 畦畔のイネ科雑草などから飛来する。

## 防除のポイント

- ◆ 出穂2週間以内の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。
- ◆ トレボン乳剤、キラップ粒剤、スタークル（アルバリン）粒剤などを出穂期に株元まで届くように散布する。

## 果樹

## ぶどう

## べと病



べと病被害葉

## 特徴

- ◆露地栽培では、雨が続くとまん延しやすい。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたらライメイフロアブル、エトフィンフロアブル、レーバスフロアブルなどを散布する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。

令和3年5月21日発出の防除情報

「露地ぶどうのべと病に注意しましょう！」についてもご参照ください。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj\\_yoj\\_youhou/R0305bet\\_o.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj_yoj_youhou/R0305bet_o.pdf)

## 褐斑病



褐斑病被害葉\*

## 特徴

- ◆米国系品種に弱い品種が多く、デラウエア等に発生が多い。
- ◆多発すると、葉が早期落葉し、果実の着色が不良となる。

## 防除のポイント

- ◆被害葉は園外に持ち出し処分する。
- ◆発生を認めたら、フルーツセイバー、オンリーワンフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

## 晩腐病



遅腐病被害果※

## 特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実に発生しやすい。
- ◆デラウエアに発生が多く、病原菌は結果母枝、巻きひげなどで越冬する。

## 防除のポイント

- ◆発生が多かった園では、収穫後にICボルドー66Dなどを散布する。

## バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

## クビアカツヤカミキリ



## 特徴

- ◆成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあります、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

## 防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット被覆している場合は、ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけたいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆発生地域では、モスピラン顆粒水溶剤など成虫対象の登録薬剤を散布する。

令和3年5月12日の防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyojyouhou/R0305kubiaka.pdf>

## 温州みかん

### 黒点病



黒点病被害果

#### 特徴

- ◆雨が連続すると発生が増加する。

#### 防除のポイント

- ◆ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤などを散布する。  
注）ジマンダイセン（ペンコゼブ）水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が「収穫90日前まで」なので使用時に注意する。

### ミカンハダニ



ミカンハダニ被害葉

#### 特徴

- ◆葉に寄生して吸汁するため、吸われた部分は色が抜けて白くなる。多発すると落葉が早まる。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

## いちじく

### 疫病



疫病被害果\*

#### 特徴

- ◆果実に緑色水浸状斑点ができ、やがて暗紫色、円型でくぼんだ病斑になり、白色のカビで覆われる。
- ◆秋の長雨の時期に発生が多い。

#### 防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷わらやポリマルチ等により雨滴のはね上りを防ぐ。
- ◆発生を認めたら、ランマンフロアブル、レーバスフロアブル、アミスター10フロアブルなどを散布する。

## 果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

### 果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

#### 特徴

- ◆チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

#### 防除のポイント

- ◆園全体を目合4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

\*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

## 野菜

## なす

## 褐紋病



褐紋病被害葉



褐紋病被害果\*

## 特徴

- ◆葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。
- ◆特に露地の水なすで発生しやすい。
- ◆梅雨時期から発生し、盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。
- ◆病原菌は被害植物とともに土壌中に残り、次作の伝染源となる。

## 防除のポイント

- ◆ほ場内の排水や風通しを良くし、湿度を上げない。
- ◆発生を認めたら直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆発生を認めたらベンレート水和剤もしくはスクレアフロアブルを散布する。
- ◆被害が発生したほ場では連作を避ける。
- ◆収穫後の種取りは、褐紋病の発生していないほ場や株から行う。

令和3年8月17日の防除情報「露地なすの褐紋病に注意！」についてもご参照ください。

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0308katsunpn.pdf>

## アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

## 防除のポイント

- ◆発生が見られたら、ディアナSC、アフーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後に施設内の除草を行い、施設を密閉して蒸し込んで虫を餓死させる。

## きゅうり(施設抑制栽培)

## ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)



ウリノメイガ幼虫\*

## 特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を寒冷紗(2mm目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

## 防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にグレーシア乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、アフーム乳剤などを散布して防除する。

## コナジラミ類



オンシツコナジラミ成虫\*

## 特徴

- ◆タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆多発すると株全体が弱り、収量も減少する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤などを散布する。

## ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

## 特徴

- ◆発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。

## 防除のポイント

- ◆ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、ベストガード水溶剤、グレーシア乳剤、アフーム乳剤などを散布する。

## 黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

## 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MSV)によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

## 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。

## きく

## 黒斑病、褐斑病



黒斑病被害葉\*

## 特徴

- ◆下葉から発生し、降雨によって感染が拡大する。

## 防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
  - ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

## 白さび病



白さび病被害葉

## 特徴

- ◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

## 防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
  - ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
  - ◆ストロビーフロアブル等を散布し、予防に努める。
  - ◆発生を認めたら、トリフミン乳剤を散布する。
- 注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。また、他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

## アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※

## 特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病 (TSWV、CSNV) を媒介する。

## 防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アフーム乳剤などを散布する。

## 野菜類・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。  
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

## シロイチモジヨトウ



シロイチモジヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ、たまねぎ）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

## ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

## 特徴

- ◆なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟）など）、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソンフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

令和3年6月4日の病害虫発生予察注意報第2号「ハスモンヨトウ」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/chuui/R306hasumontyuui.pdf>

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto\\_l.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf)

## コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

## 特徴

- ◆主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

## 防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球あぶらな科葉菜類など）、ディアナSC（非結球あぶらな科葉菜類など）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。  
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

## 野菜類・花き類

## アブラムシ類



ワタアブラムシ※

## 特徴

- ◆作物を吸汁し、生育を阻害する。また、排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

## 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**アドマイヤー顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマトなど）、**コルト顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマトなど）を散布する。

## オオタバコガ



オオタバコガ幼虫

## 特徴

- ◆果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

## 防除のポイント

- ◆果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、**プレオフロアブル**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、**アニキ乳剤**（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。